

## 九州医療センター

【基本理念】 病む人に寄り添い安全かつ最適な医療を提供します

【薬剤部理念】 薬の専門知識と豊かな人間性を持ち 患者や医療従事者に対して安心安全の薬剤管理と質の高い医療に貢献する

### 【病院紹介】

当院は、福岡 PayPay ドームに隣接する総合医療センターです。九州全域を診療圏とする高度先駆的医療、難病の専門医療、循環器疾患を主とする高度救急医療、高度周産期医療をその主たる診療機能としてスタートしましたが、1999年3月の政策医療推進計画において、高度総合医療施設に位置づけられ、現在、循環器病、がん、血液・造血器疾患、肝疾患、成育、免疫異常疾患、内分泌・代謝疾患、腎疾患、感覚器疾患、精神疾患の10分野の専門医療施設のほか、エイズ・災害の九州ブロック拠点病院などの多彩な付加機能を有し、診療、臨床研究、教育・研修の三つの柱に情報発信という機能を加えて、多様な医療のニーズに応えています。福岡市西部における第二種感染症指定医療機関であり、二類感染症および新型インフルエンザ等感染症の患者受け入れのほか、新型コロナウイルス感染症については軽症～中等症の患者を受け入れなど重要な役割を果たしています。また、令和2年4月1日から「地域がん診療連携拠点病院（高度型）」に指定されました。今後も引き続き、福岡医療圏におけるがん診療の拠点として、高度で安心・安全ながん診療を提供していきます。

### 【施設概要】 2023.7.1（データは2022年度実績）

1. 所在地 〒810-8563 福岡市中央区地行浜 1-8-1
  2. 特徴 地域医療支援病院、広域災害九州ブロック拠点病院、地域がん診療連携拠点病院  
救命救急センター、第二種感染症指定医療機関、エイズ九州ブロック拠点病院  
地域周産期母子医療センター、BFH（Baby Friendly Hospital）認定病院、  
病院機能評価認定病院
  3. 診療科 36 診療科  
【外科系】  
肝胆膵外科、消化管外科、乳腺外科、リウマチ科、整形外科、形成外科  
呼吸器外科、心臓外科、血管外科、脳神経外科、脳血管内治療科、小児外科  
【内科系】  
総合診療科、代謝内分泌内科、膠原病内科、血液内科、消化器内科、呼吸器内科  
免疫感染症内科、腎臓内科、高血圧内科、循環器内科、脳血管・神経内科、腫瘍内科  
【外科系・内科系以外】  
産科、婦人科、小児科、放射線科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科  
皮膚科・アレルギー科、精神神経科、歯科口腔外科、救急科、麻酔科
- 病床数 702 床  
一般 650 床（うち ICU 4 床、HCU4 床、SCU 6 床、NICU 9 床、GCU6 床）  
精神 50 床、感染症 2 床
4. 薬剤師数（定数：35 名）  
薬剤部長 1 名、副薬剤部長 2 名、主任 11 名（うち治験 3 名）、  
薬剤師 21 名（うち治験 2 名）

薬剤助手 11 名、事務助手 1 名

5. 主な業務

- (1) 調剤 入院 170,367 枚/年、外来院内 13,613 枚/年 (院外処方率 88.9%)
- (2) 注射 入院 195,265 枚/年、外来 19,073 枚/年
- (3) 薬剤管理指導件数 4,006 件/年 (333 件/月)
- (4) 無菌製剤処理料 I ; 13,269 件/年 (うち閉鎖式使用 2,569 件)、II ; 1,488 件/年
- (5) 外来化学療法加算 1 A (15 歳以上) 6,665 件/年 B (15 歳以上) 967 件/年
- (6) 病棟薬剤業務実施加算 実施病棟数 1 ; 14 病棟 2 ; 43 病床
- (7) チーム活動 ICT (感染防止対策加算 1・感染防止対策地域連携加算)、AST (抗菌薬適正使用支援加算)、NST (栄養サポートチーム加算)、緩和 (緩和ケア診療加算)、がん化学療法、DMCT

6. 特徴的な業務 :

- (1) 総合医療支援センター (MCC) における入院前支援 ;  
観血的処置前中止薬、造影剤使用前中止薬、がん・周術期の口腔管理に注意を要する  
薬剤の確認・情報提供、入院前服用薬確認 (泌尿器科術前患者対象)
- (2) 外来総合治療センターへの専任薬剤師配置 ;  
レジメン管理、患者指導、副作用マネジメント等の実施
- (3) 研修受け入れ ;  
日本病院薬剤師会 HIV 感染症薬物療法認定薬剤師養成研修  
日本医療薬学会地域薬学ケア専門薬剤師連携研修、薬学生実務実習  
日本医療薬学会がん専門薬剤師研修、日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修  
日本医療薬学会専門薬剤師制度研修、日本臨床腫瘍薬学会がん診療病院連携研修

7. 令和 5 年度の取り組み

病棟薬剤業務のさらなる充実、外来では経口抗がん剤の服用を開始する患者への指導及び地域医療連携の拡充、ヒヤリハット事例のデータベース化による評価・再発防止策の検討、学会発表・論文投稿等の推進、プレアボイド報告の推進、PBPM の項目を増やしタスクシフト/シェア・薬物療法の適正化及び安全管理を図る

8. システム・設備

項目	有・無
電子カルテ	○
自動錠剤分包機	○
散剤監査システム	○
水剤監査システム	×
散剤分包機	○
安全キャビネット	○
クリーンベンチ	○
その他(自由記載)	
軟膏練り機	○
麻薬管理システム	○

## 9. 目標

### 【令和5年度病院目標】

1. 地域と連携した安全で最適な医療の提供
2. 病院整備投資計画を推進するための経営基盤を維持
3. 新興感染症等の有事に対応しうる診療体制の構築
4. 勤務環境改善とキャリアアップ支援
5. 働き方改革と業務効率化の実現

### 【令和5年度薬剤部目標】

- I. 医療の質の向上に関して
  1. 医療安全対策の推進強化
  2. チーム医療の更なる推進
  3. 病棟薬剤業務及び薬剤管理指導業務の充実
  4. 臨床研究、学会発表の推進
  5. 薬薬連携への取り組み
- II. 経営の質の向上に関して
  1. 各指導件数の確保  
薬剤管理指導件数、連携充実加算、他
  2. 後発医薬品採用の推進
  3. 実習生・研修生受け入れの推進
  4. 医薬品の適正な在庫管理